

本来であれば、民生委員はその方の住居に入るべきではありませんし、物品の提供も控えるべきです。ただ、当時は今よりもずっと近所との垣根が低く、その方との間には信頼関係が築けていました。

その後、地区副会長を務めるようになった石井さんは、そういった場合の対応方法や、何よりもまず仲間に相談することの大切さを後輩委員の皆さんにお話ししていたようです。

30年も民生委員をやっていると、いろいろな出来事があったという石井さんですが、一人の民生委員にできることといたら、目の前の困っている方に寄り添うことくらいだったといいます。

「よく行政などが出すお知らせを、住民の方に届ける機会があります。その時、笑顔で、ひと言声を添えるだけで、無機質な紙の通知を暖かなものに変えることができると思うんです。届けたその方が、少しでも『頑張ろう』という気持ちを持ってもらえるかもしれません。難しく考えず、目の前にいる困っている方の気持ちを受け止めて、背中にそっと手を添えて、そして少しその背中を押してあげる、それだけで十分だと思います」

### 出合いを楽しみ、縁を育む

民生委員を務めるうえで、大切なこととお聞きすると「第一に考えてほしいのは、自身と家族の健康

です。それを犠牲にしてまで行う必要はないと思っています」と、委員活動には家族の支えと理解があつてこそだと話します。石井さんのところでは、「私の帰りが遅い時には、必ず主人がカレーを作って待っていてくれます（笑）」とのことでした。

もし、その心配がなく、少しでも心にゆとりがあるのなら、とりあえず続けてみるといういろいろな出合いがあるといいます。「地域の状況が見えてきて、顔見知りも増えてくると、悪いことはできないと思う反面、活動は今よりもっとしやすくなると思いますし、やりがいも出てくるものです」

石井さんが続けてこられたのは、ともに地域を歩んできた仲間の存在も大きかったようです。民児協はもちろん、高根台たすけあいの会（下記参照）の仲間、そして長年民生委員として関わりをもった地域住民の皆さんとの縁の一つひとつが、石井さんの心をほっこりと暖め、これまでの活動、そしてこれからの活動を支えてくれる大切な財産なんだと、つくづく感じているようです。

最後に、「これからも、この縁を大切に頑張っていきたいと思っています。皆さんも、縁があつて就任した民生委員です。出合いを楽しみ、縁を大切にしてください。きっと、皆さんを待っている方がいるはずですよ」と話してくれました。

### 高根台団地とたすけあいの会

●人口：10,577人／●世帯数：5,505世帯／●65歳以上の人口：3,483人／●高齢化率：32.9%／●民生委員数：19名（うち主任児童委員1名）●平成25年3月1日現在 ●データ協力：船橋市民児協

高根台団地は、都市再生機構（当時：日本住宅公団）による造成後、昭和37年から入居が開始された戸数4,650戸を擁する大規模団地です。新京成線・高根公団駅を中心に、都市再生機構の団地群や分譲住宅が立ち並び、現在は同機構による再開発が進んでいます。

団地の入居開始から30年を経た平成4年5月、団地居住者の高齢化が顕著となってきたことを受けて、民生委員や自治会が中心となって、家事援助を行う「高根台たすけあいの会」という住民互助組織

を船橋市で初めて結成しました。

その後も活動の幅を広げ、高齢者の居場所づくりにと、食事会や茶話会、ティールーム「きんもくせい」をはじめ、住民向け広報紙の発行などを行ってききましたが、惜しまれながらも平成23年3月に担い手の高齢化を理由に解散しました。

しかし、その後、多くの地域住民から再開を望む声があり、平成25年4月を目標に、新たな家事援助組織「ささえっこ高根台」の設立に向け、現在準備を進めています。